

〔考 察〕

視覚記銘検査は、視覚認知、視覚運動、および視覚記銘要素の相互作用が関連している検査であるが、今回は知能を視覚的側面よりD型低IQ児とコントロール群低IQ児との質的比較を試みてみた。この検査は知能欠陥の児童でも低い成績を示す傾向があり、その点数は年令より全般的知能水準や精神年令に一致していると言われている。したがってコントロール群低IQ児が知能水準と一致した成績を示すということは意図出来ることであるがD型低IQ児において巾広い変化がみられることは、量的に類似性をもっていながら質的には何らかの差があることを示唆出来るものと思われる。しかし誤謬数の分類で述べたゆがみ、置き違い、大きさの誤り等の差は、この検査のもっている機能とDMP児の運動能力から考えた場合、その心理的意味づけは明確ではない。

今回は症例も少なく、又視覚記銘検査を通してのグループ間の比較しか出来ず今回の結果だけで知的側面を述べることは不十分であるが、今後更に Wisc 知能検査のサブテストとを関連づけ視覚記銘、視覚認知の視覚運動能力等の心理機能を考え、D型低IQ児の知能のメカニズムを明確にしたいと思う。

6. 集団行動に適応しにくい学童の生活指導

国立療養所南九州病院

郡 山 艶 子 坂 元 美 智 子

〔目 的〕

病棟に於ける集団生活は、外部社会との接触も限られ、刺激に乏しく、単調になりがちで、情緒不安定からと見られる問題行動をひきおこし、生活の流れを乱したり、無気力と思える位消極的で、自己表現に乏しく、忘れられた存在として落ちこぼれていく場合もある。この様な患児に対し 現状脱却を図り、生活のルールの必要性を認識させ、自主的に取り組む意欲を持たせ、集団行動に適応させる事をねらいとし、生活指導を試みた。

〔方 法〕

対象児として、年令10才より12才の同室男児を中心に10名をグループとし、散歩、マイナスゲーム、トランプ遊びを用いた。

週一回実施で曜日を設定、グループの調和を考え乍ら、患児同志の話し合いで、何をするか決

めさせ、片寄った意見の場合調整実施した。散歩は、廊下伝いに正面玄関、門迄というコースとする。しかし、障害度が進み、歩行状態が不安定となると、往復に疲労を訴え、参加に消極的になる子も出たりした。

散歩は、病棟外へ出る解放感と、社会性の乏しい患児にとり、外部へ接触する事のプラス面は大きく、楽しい遊びでもあり、散歩が決ると、患児同志声を掛け合い、時間通り集合する連帯意識らしいものがめばえたり、病棟内では仲々付けたがらないヘッドサポーターも、全員付けて参加という具合に、決められた事を守り、行動しようとする姿勢が感じられた。マイナスゲームは卓球台を囲み、ベニヤ板製の羽子板様ラケットでピンポン球を転がし、落球したら減点する単純なゲームで、人数の増減が容易で、歩行児、車椅子児共ゲーム展開が可能で、子供達に好まれた。

トランプ遊びは、三種類位試みたが、勝負に時間を要するものは根気の無い子の興味をそぎ、数的観念の必要なものは脱落児が出て、形で判別するものが、全員の興味が持続出来た。負けが目立つと、嫌やがらせの暴言が出たり、勝負を意識し過ぎてべそをかく子、試合放棄等、思いがけない子供達の変化や反応が見られ、意図した効果の得られない事もあったが、それぞれの場面で参加児の意見も求め乍ら、グループで解決策を見出させる様な方向付けを行った。その結果、興味持続の留意点とし、(1) ルールを明確にし、全員に徹底させ実施させ、トラブルを防ぐ。(2) リーダー的役割の果せる子の参加で展開がスムーズとなる。(3) 複雑過ぎる内容のものをさける。(4) 採点表を用いる。等が挙げられる。

〔ま と め〕

散歩、ゲーム等、実施する中で、病棟内では無口な患児が、戸外活動では活発に発言したり、乱暴な言動、身勝手な行為、ルール違反が集団生活の中で、他の人に及ぼす影響の大きい事を体で経験させる効果は大きく、グループ活動の楽しさも理解させ、又職員とのかかわりが増す事でコミュニケーションが良くなり、注意に対しても素直な反応が見られる様になったが、まだまだ衝動的言動に走る場合も多いので、今後は言葉遊び、読書等へと巾を広げ、正しい会話の在り方等も理解させ、自己表現を確かにする事で心の抑圧を除き、円満な人間関係の広がりを期待したいと思う。

↓ **検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用 ↓
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

〔目的〕

病棟に於ける集団生活は、外部社会との接触も限られ、刺激に乏しく、単調になりがちで、情緒不安定からと見られる問題行動をひきおこし、生活の流れを乱したり、無気力と思える位消極的で、自己表現に乏しく、忘れられた存在として落ちこぼれていく場合もある。この様な患児に対し現状脱却を図り、生活のルール必要性を認識させ、自主的に取り組む意欲を持たせ、集団行動に適応させる事をねらいとし、生活指導を試みた。